

2026年度入学試験問題

注 意

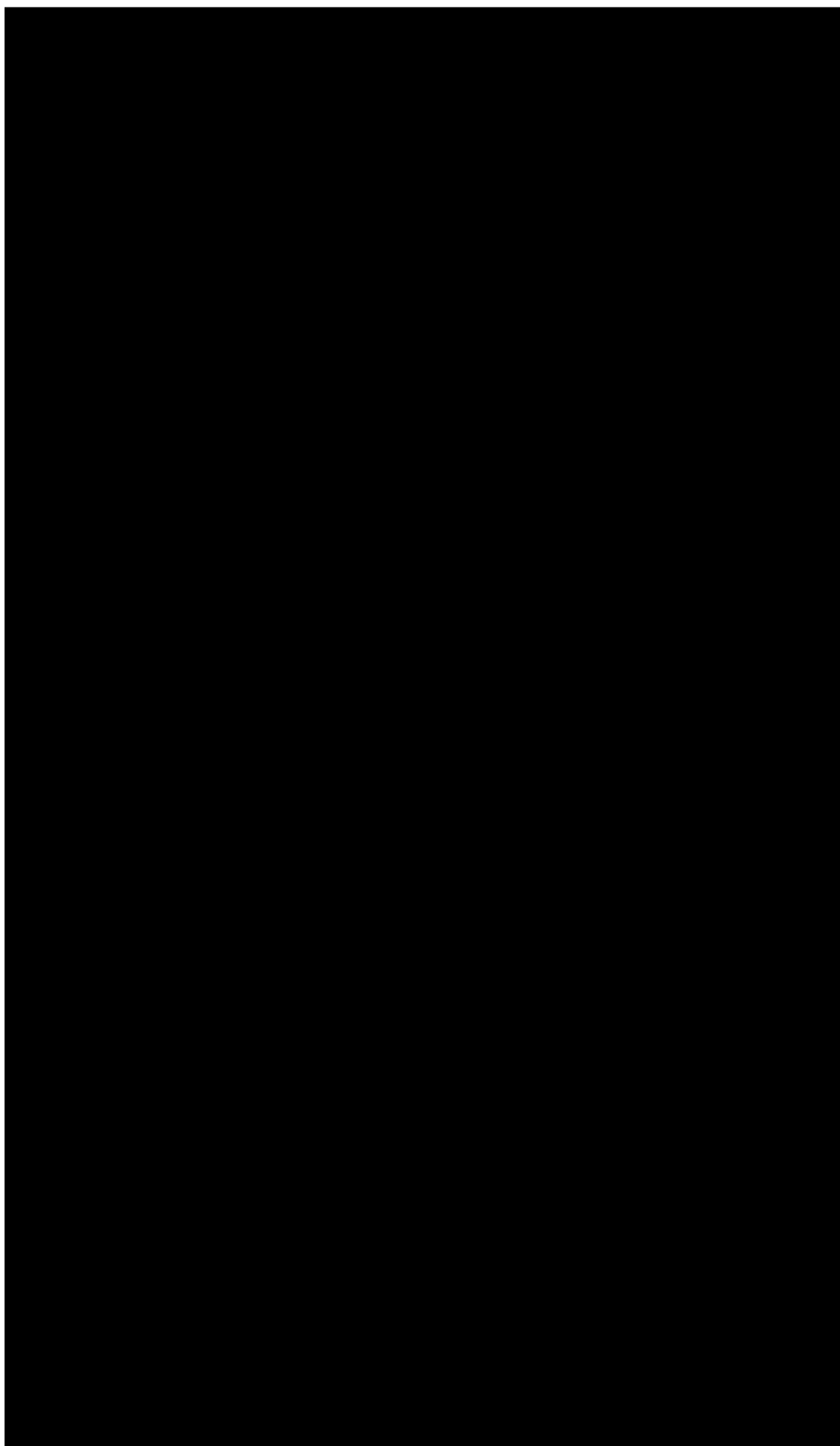
国 語

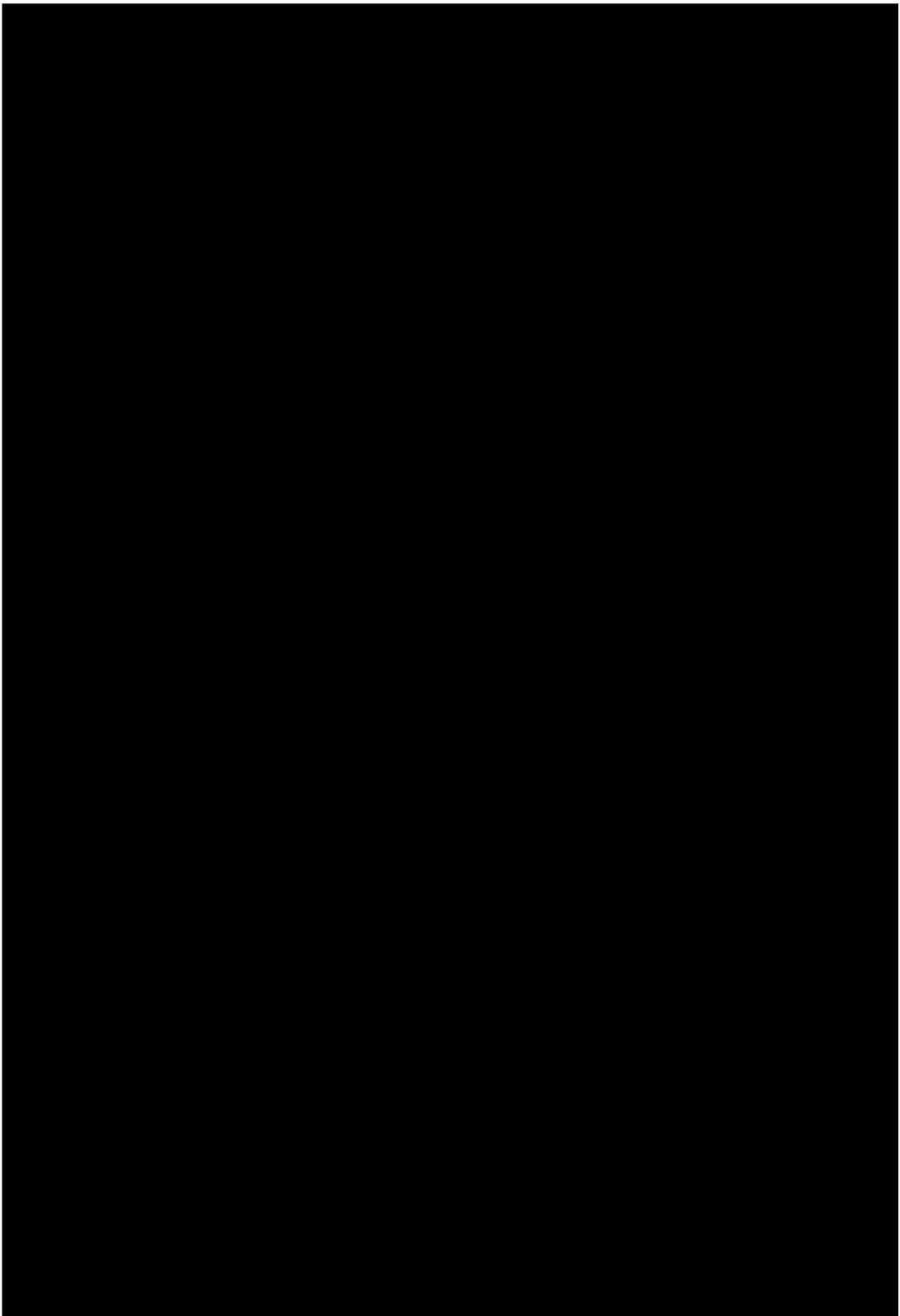
- 一 問題冊子は一冊（十九ページ）、解答用紙は二枚です。
- 二 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 三 すべての解答用紙に、それぞれ二箇所受験番号を算用数字で記入しなさい。
- 四 解答は、すべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五 試験終了後、問題冊子は必ず持ち帰りなさい。

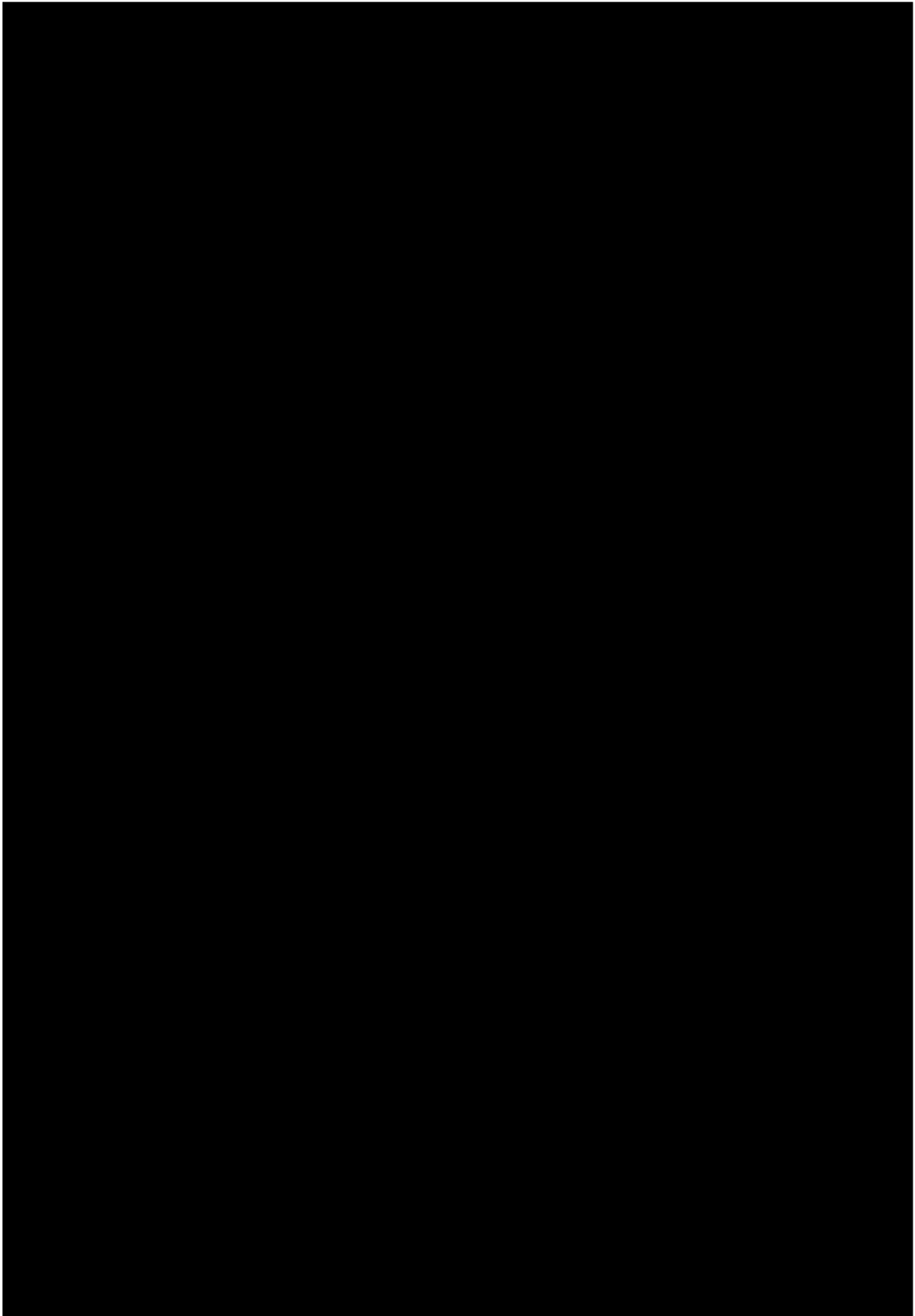
問題

—

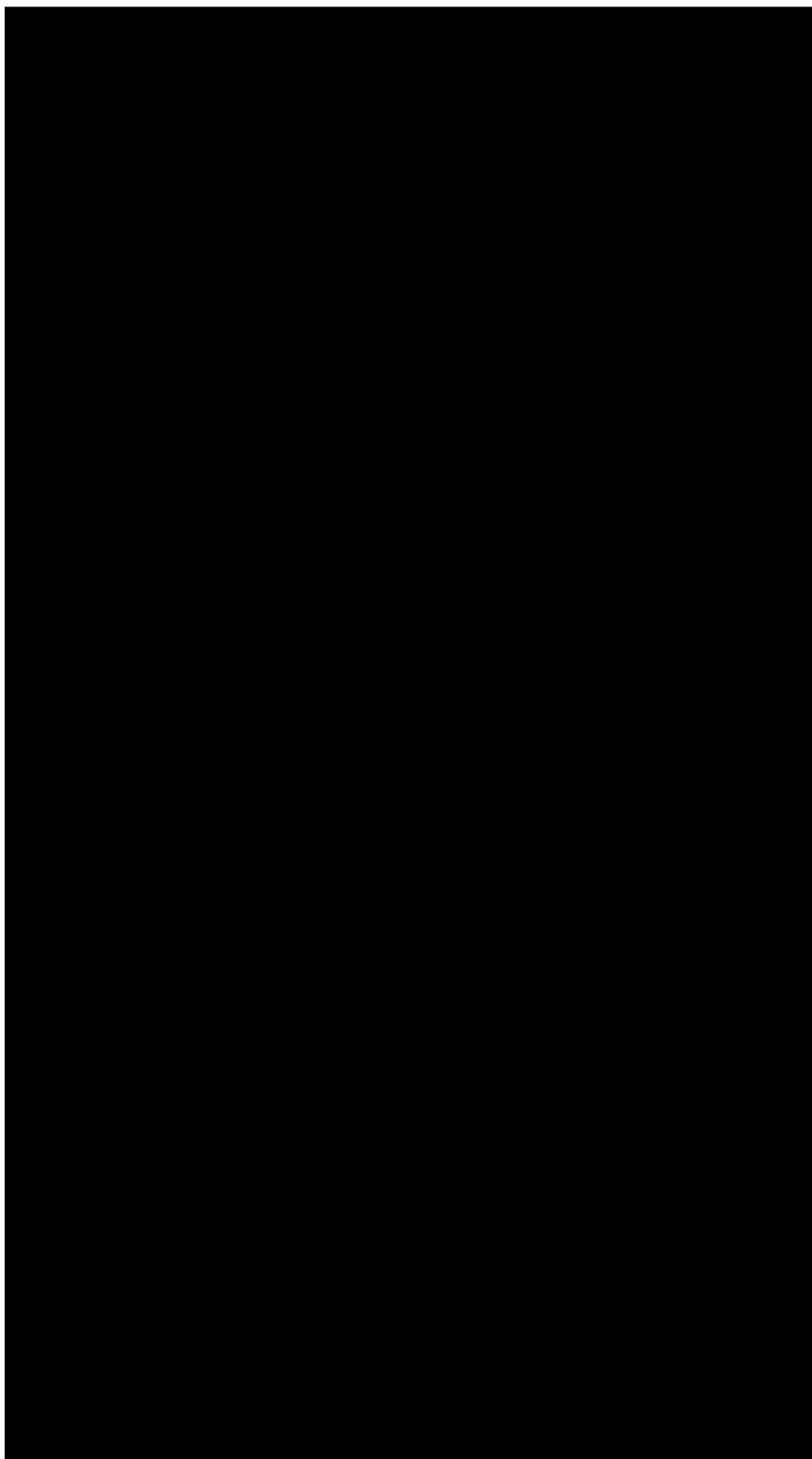
次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(出題の都合上、本文に手を加えたところがある。)







(山極寿一『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』による)



問一 傍線部アイウエオのカタカナ部分を漢字に直しなさい。

問二 傍線部①について、「人間に確実な物語をもたらしたのは道具である」とはどういうことか、「道具」の共有前のことをふまえて、わかりやすく説明しなさい。

問三 傍線部②について、「自在に言葉を操る」とはどういうことか、「言葉」の性質をふまえて、本文に即してわかりやすく説明しなさい。

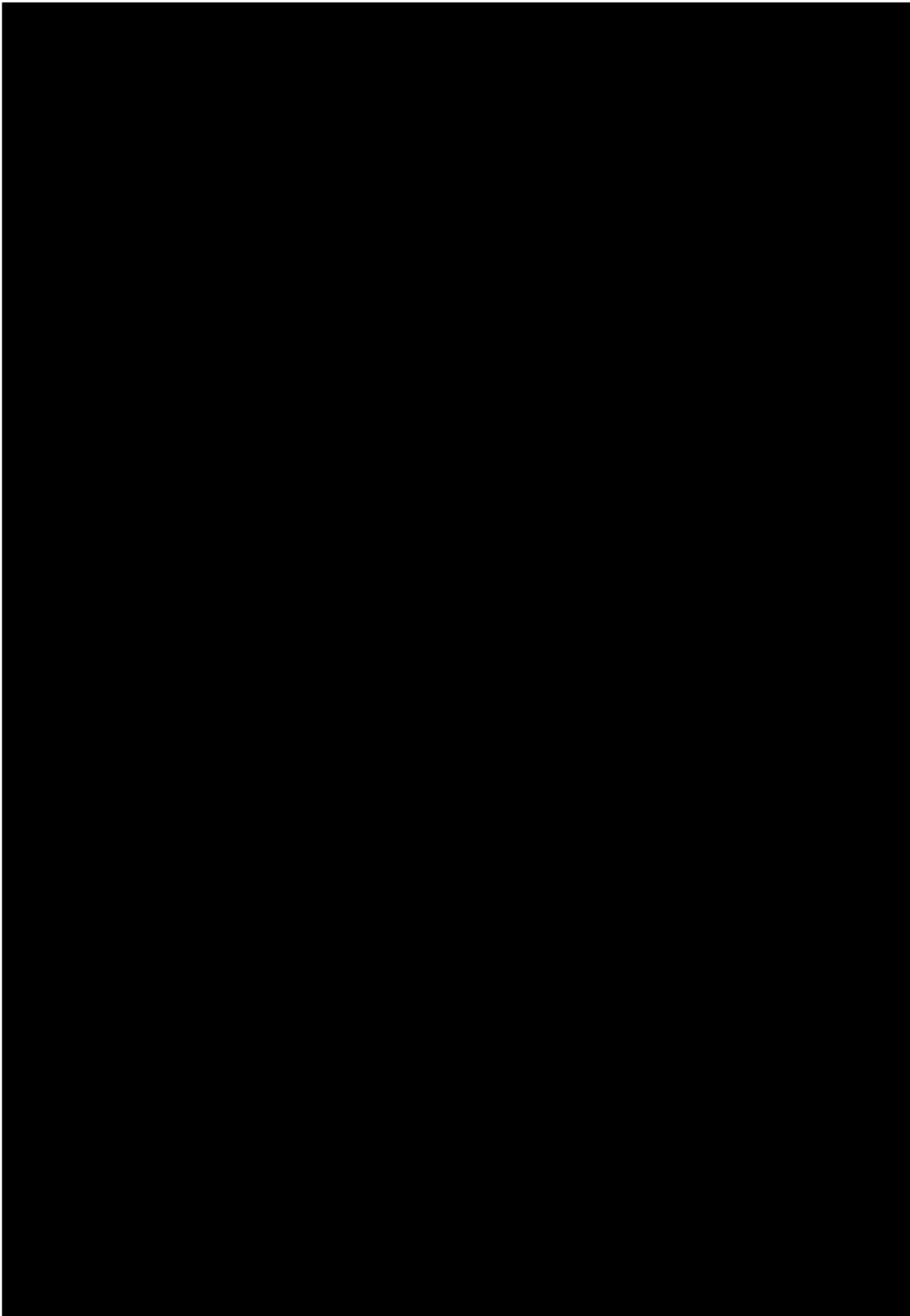
問四 傍線部③について、「それ」「負の効果」の内容を明らかにしつつ、ここで筆者が主張していることを、わかりやすく説明しなさい。

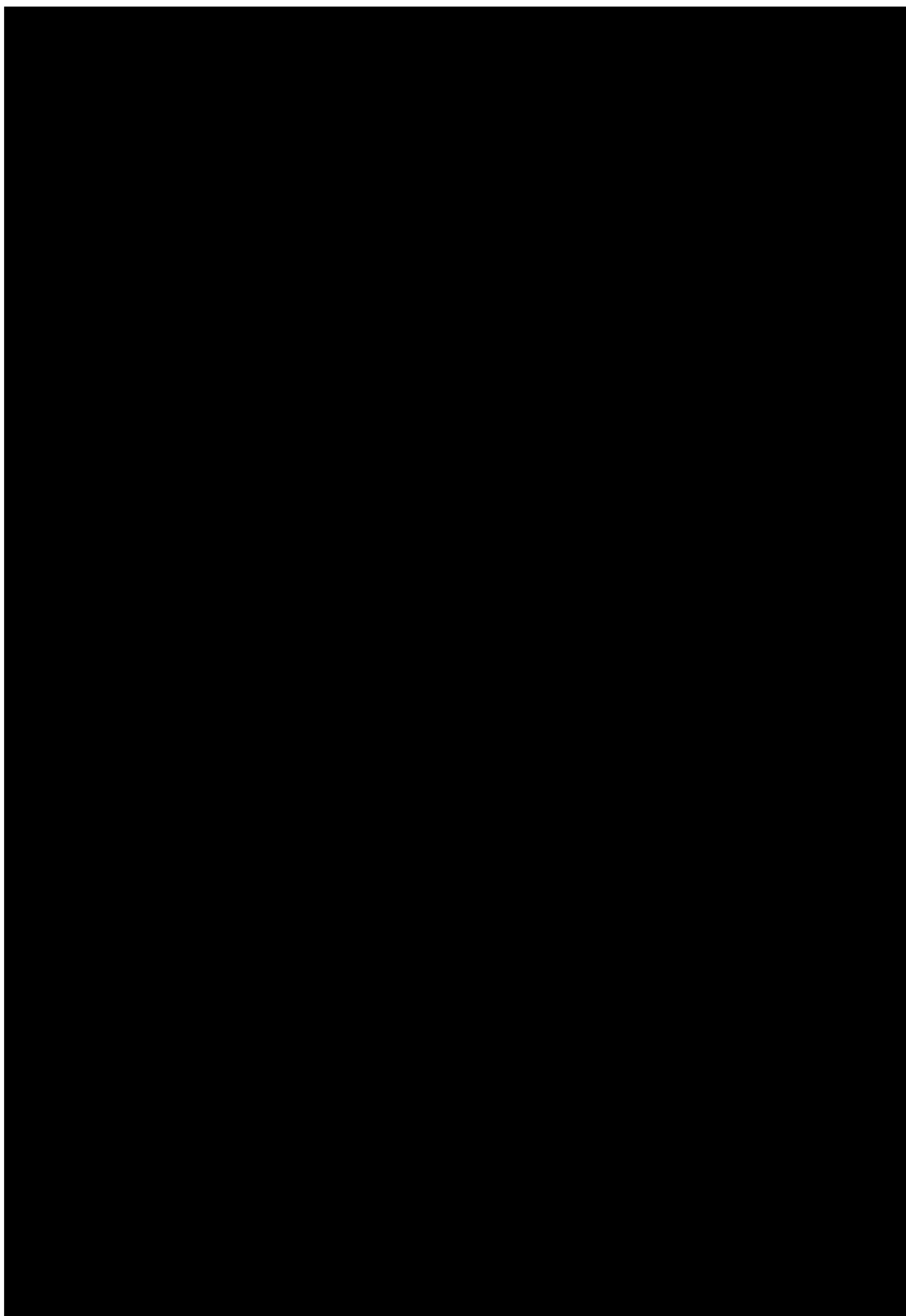
問五 傍線部④について、「人間の物語の終わり、すなわち人間の終わりを意味する、と私は思う」と筆者が思う理由を、「物語」のあり方や役割の変化をまとめながら、説明しなさい。

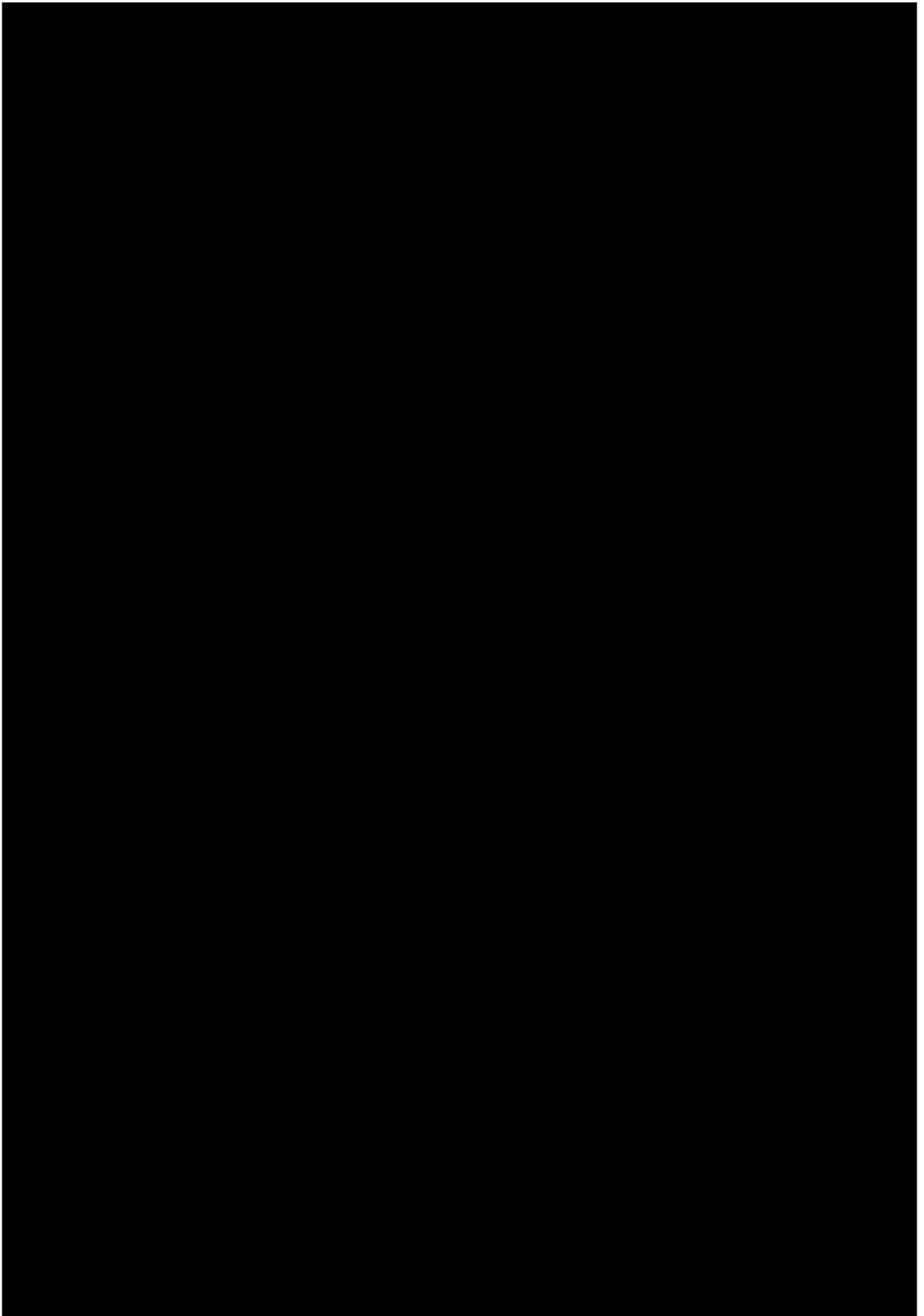
(次のページにも問題があります。)

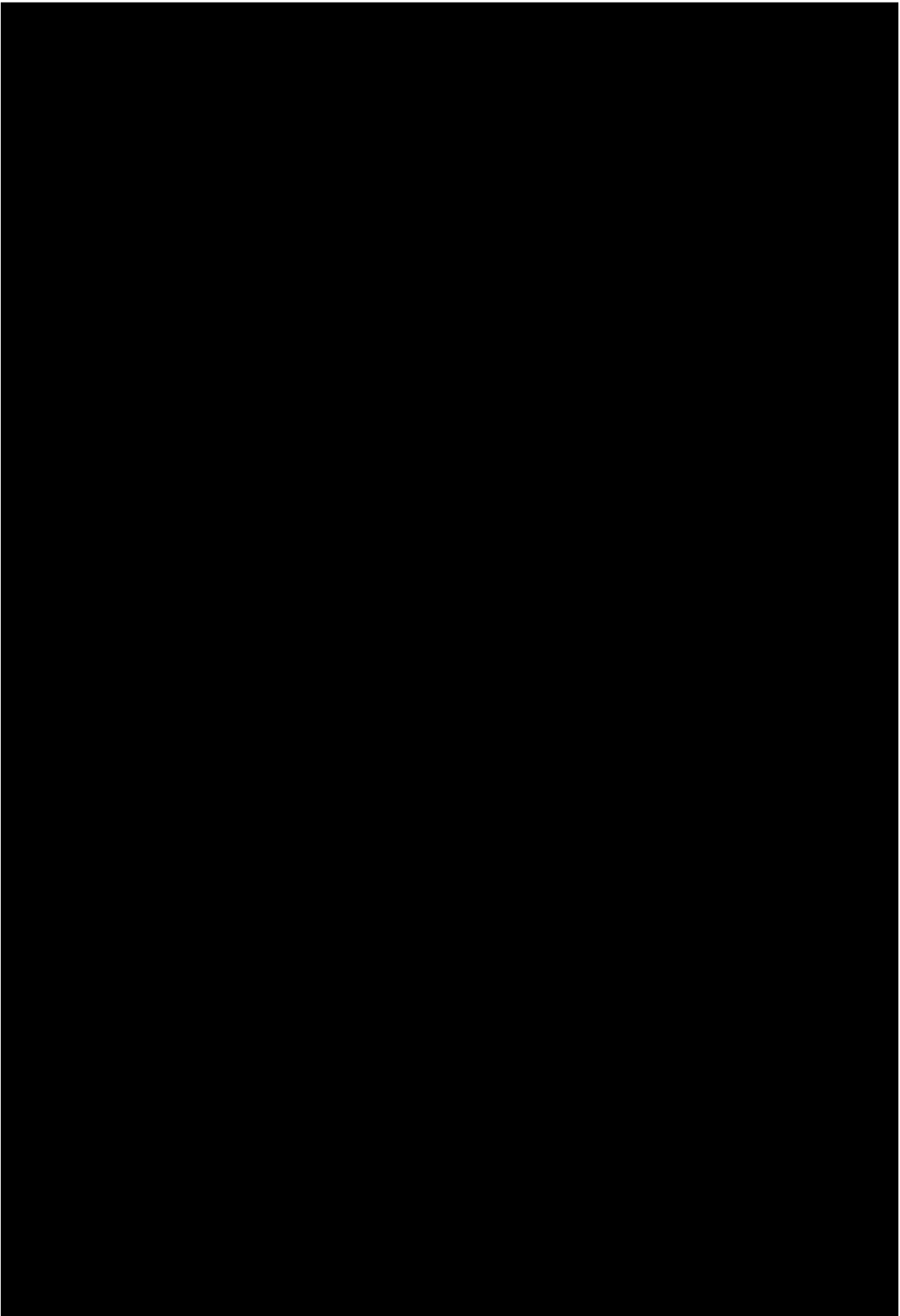
問題 二

次の文章は、南木佳士「冬物語」の一部である。医者である語り手は、冬になるとワカサギ釣りに熱中していた。ある時、釣りの最中に誤って湖氷を割ってしまっておぼれかけたところを、近くで釣りをしていた園田かよさんに助けられ、かよさんの家で服を乾かすことになる。これを読んで、後の問に答えなさい。（出題の都合上、本文に手を加えたところがある。）









(南木佳士「冬物語」による)

注一 上下肢＝手と足。

注二 割烹着＝料理や家事などをする際に、服の上に着る仕事着。

注三 アタリ＝魚がエサにさわること。また、魚がエサを引く時に、竿や手などに伝わる感触。

注四 ラッカー塗料の一種。

問一 傍線部①について、以下の(1)・(2)の間に答えなさい。

- (1) かよさんはワカサギ釣りをどのようなものとして捉えているか、具体的に説明しなさい。
- (2) それに対して語り手は、ワカサギ釣りをどのようなものとして捉えているか、語り手の日常生活をふまえて説明しなさい。

問二 傍線部②について、「事が終わってしまっている」とは、この場合どのようなことを指しているか。また、そうした「予感があつた」理由についても、説明しなさい。

問三 次に示すのは、右の文章を鑑賞した三人の生徒A・B・Cが、先生の問い掛けを受けて話し合っている場面である。空欄ア・イに入る適切な内容を、本文をふまえて書きなさい。特にアについては、本文中の言葉をあげて根拠を示して書きなさい。

先生―傍線部③で、安男さんの死に対して「不思議になごやかな臨終の光景」と書かれているが、かよさんも語り手も、安男さんの死を悲しんでいないのでしょうか？ 話し合ってみて下さい。

生徒A―私は悲しんでいると思う。特にかよさんの方は

ア

から、悲しんでいることがわかるね。

生徒B―私もそう思うんだけど、でも傍線部④では、かよさんの目が「祭りを待つ少女のそのようによく光っていた」ともあるけれど……これはどういうことかな。

生徒C―「どこか晴ればれとした表情」で「オムツをかたづけている」かよさんの様子や、「葬式が終わったらまた釣りに

出るからさあ」というかよさんのセリフからすると、「祭りを待つ少女」というのは、

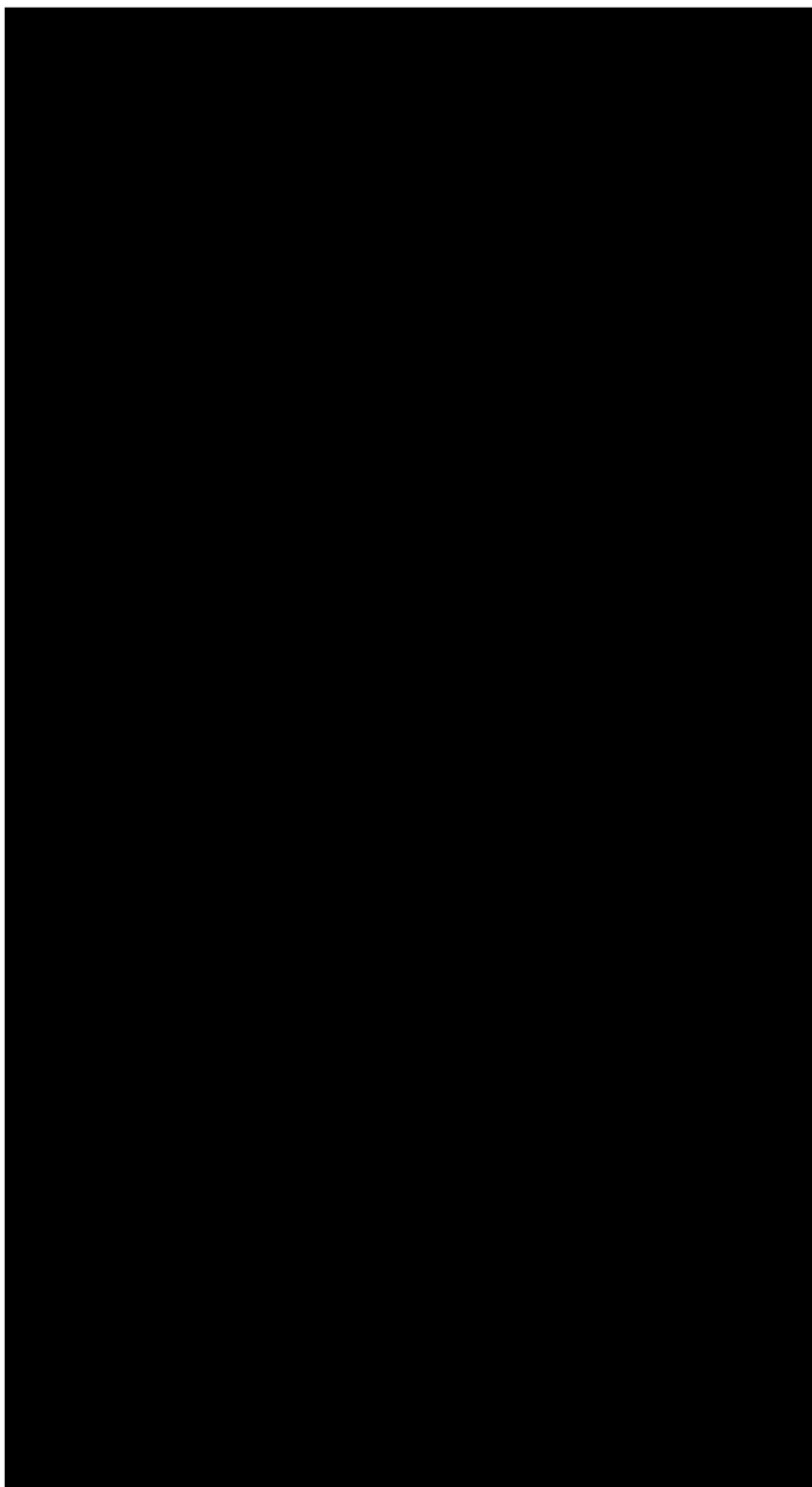
イ

を表しているのではないかな。

先生―そうですね。作品の最後に、かよさんの悲しみを描きつつも同時にそうした複雑な心境を表現することで、作品自体も単純に暗いだけ、あるいは明るいだけではない、複雑な余韻を読者にもたらすように作られているのですね。

問題 三

次の文章は、三条西公条きんえだが紹巴じょうは・宗見そうけんらとともに旅に出立した場面および旅の終わりの場面である。これらを読んで後の問に答えなさい。(出題の都合上、本文に手を加えたところがある。)



注一 床離れⅡここでは、公条が四十二年あまり連れ添った妻に先立たれたことを指す。

注二 御影堂Ⅱ後鳥羽院を祀る堂。

注三 男山八幡Ⅱ石清水八幡宮のこと。水無瀬の対岸にある。

注四 邂逅Ⅱここでは思いがけないことを指す。

注五 障礙なくⅡ障害なく。

注六 野宮寺より出で立ちしかばⅡ都を出立する際に野宮寺に集合したと見られる。

注七 つまなしⅡ梨のこと。

問一 傍線部アイウエを現代語訳しなさい。

問二 破線部①は、ある文芸を指す。この文芸は、和歌の上の句（五七五）と下の句（七七）を交互に別の人が続けていく遊びである。破線部①が指す文芸の名前を答えなさい。

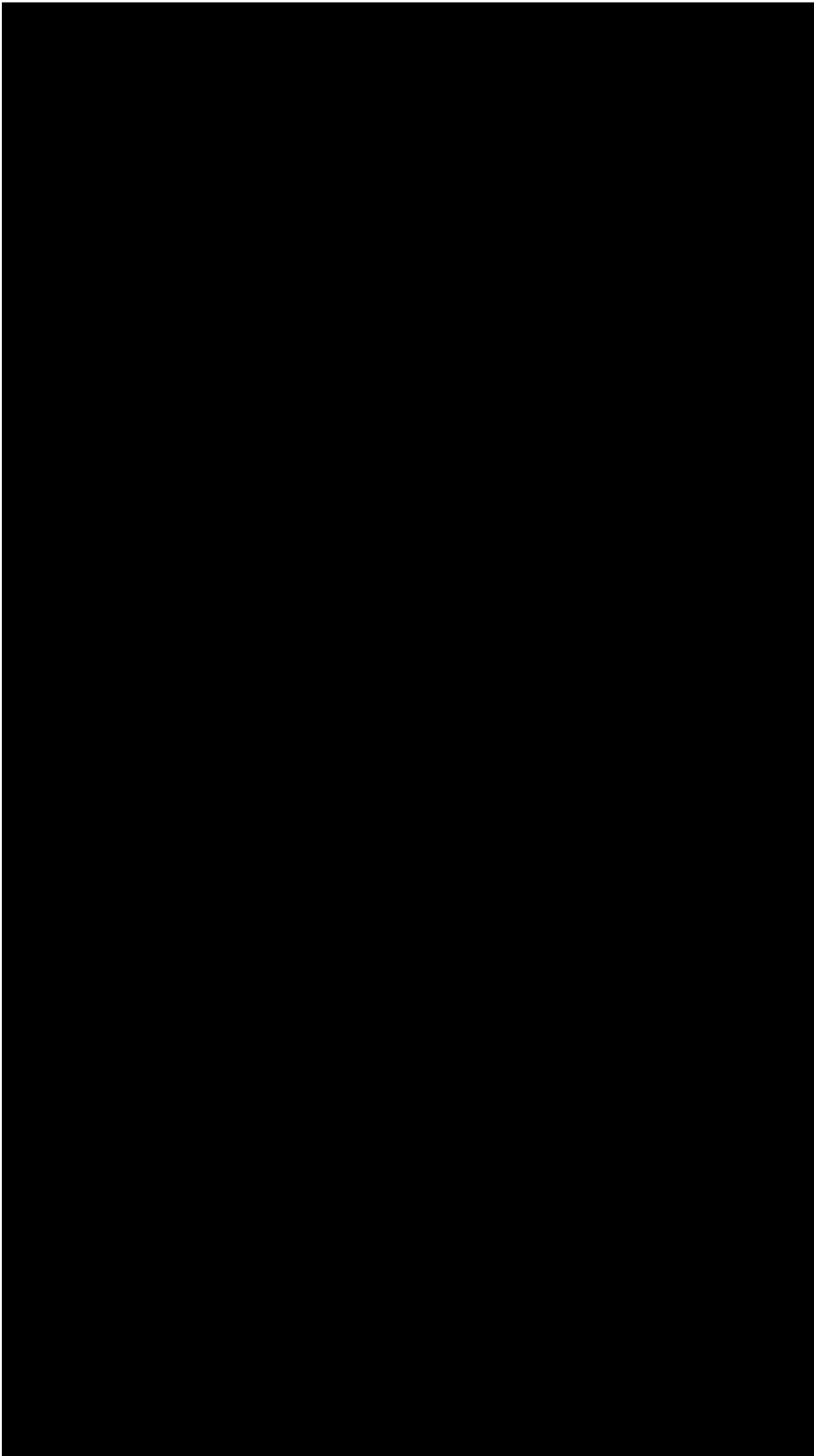
問三 破線部②は妹背山のある吉野への出立を詠む歌の一部である。掛詞に注意して出立の理由を説明しなさい。

問四 【旅の終わり】の場面における公条の状況と心境の変化について、家に帰り着くまでと帰り着いた後を対比させて説明しなさい。

(次のページにも問題があります。)

問題 四

次の文章は、春秋時代の覇者として知られる晋の文公（文中の重耳）が、晋国の君主となる前の出来事を述べたものである。重耳は、父である献公の後継争いの影響により亡命し、側近の趙衰らとともに各国をさまよっていた。これを読んで、後の問に答えなさい。（出題の都合上、本文に手を加えたところや訓点を省略したところがある。）



注一 里克Ⅱ晋の大臣。

注二 奚齊・悼子Ⅱいずれも献公の子。重耳の異母兄弟。

注三 宦者履鞮Ⅱ晋の恵公に仕えていた宦官。

注四 収恤Ⅱ救い助ける。

注五 管仲・隰朋Ⅱいずれも斉の桓公を補佐した宰相。

注六 齊女Ⅱ斉国の公女。重耳が斉に来たときに妻となった。

注七 女徳Ⅱここでは女性を好む心情のこと。

注八 載Ⅱ馬車に乗せて。

問一 二重傍線部アイウの読みを、送り仮名も含めてすべて平仮名で書きなさい。現代仮名遣いを用いてもかまわない。

問二 傍線部①と同じ意味で「卒」が使われている文を、次のA～Dから一つ選びなさい。

A 士卒戦はず、城門閉ぢず。

B 孔子卒後、今に至るまで五百歳。

C 儒道深奥、倉卒にして成るべからず。

D 卒然辺境に急有り。

問三 傍線部②「盍往乎」について、次の二つの問に答えなさい。

(1) 現代語訳しなさい。

(2) この文は、「何□往乎」と言い換えることができる。この□に入る漢字一文字を答えなさい。

問四 傍線部③を全て平仮名で書き下し文にしなさい。現代仮名遣いを用いてもかまわない。

問五 傍線部④について、斉女と趙衰らが「酔重耳、載以行」という強引な手段をとったのはなぜか、重耳と斉女の考えを対比さ

せながら説明しなさい。